

令和 3 年 5 月 24 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K12047

研究課題名（和文）臨床経験による研修歯科医の医療面接能力の変化

研究課題名（英文）Changes in medical interview skills of trainee dentists based on clinical experiences

研究代表者

吉田 登志子（Yoshida, Toshiko）

岡山大学・医歯薬学総合研究科・助教

研究者番号：10304320

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：歯科医師の第一歩としての臨床研修期間中に臨床経験を積むことによって、研修歯科医の共感性および初診時医療面接能力がどのように変化するかを検証するために本研究を実施した。研修開始時と修了時のそれぞれにおいて、研修歯科医は共感性を測定する質問紙に回答した後、模擬患者との初診時医療面接を行った。模擬患者および指導歯科医は評価票を用いて医療面接時の研修歯科医の態度を評価した。また、録画された医療面接の会話内容を分析した。1年間の初期研修における研修歯科医の共感性には変化はなく、診断のための歯科医学的な情報収集に集中するような医療面接に変化していることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では医療面接の会話を「発話」という、一つの考えや事柄を含む単位に区切り、その「発話」の内容と機能によってカテゴリー化し、分析した。また、患者の不安や心配に関する言動に対して医療者がどのように対応したかも分類した。これらの方法を用いることにより、従来行われてきた量的な分析に加え、会話の文脈を考慮した質も加味した分析が可能となった。この点が学術的意義であると考えられる。また、社会的意義として、患者の社会心理面にも配慮した患者中心の医療の実現に寄与するために、本研究の結果を踏まえ、今後の歯科医師の養成において共感性の涵養や医療面接教育にどのような工夫が必要なのかを検討できる点が挙げられる。

研究成果の概要（英文）：This study was conducted to verify how the empathy of the trainee dentists and the medical interview skills change as the trainees gain clinical experiences during the clinical training period.

The trainee dentists conducted initial medical interviews with simulated patients (SPs) twice, at the beginning and the end of their clinical training. The trainees completed a questionnaire to measure empathy just before each medical interview. The SPs and clinical instructors evaluated the trainees' communication using questionnaires immediately after the medical interviews. The videotaped dialogue from the medical interviews was analyzed. There was no change in the empathy of the trainee dentists in their one-year postgraduate training, and it was suggested that the trainees becoming more focused on collecting dental information for diagnosis in medical interviews.

研究分野：医療行動科学

キーワード：臨床研修歯科医 医療面接 臨床経験 臨床研修 JSE RIAS VR-CoDES

1. 研究開始当初の背景

歯科医療は局所的な外科的性格を帯びていること、疾患部の視診や触診が可能であることなどから、口腔内状態の客観的な情報を優先しがちである。加えて外科的処置に必要な手技を重んじる傾向にあるため、元来より患者の主観的な情報に重点が置かれてこなかった。しかしながら、口腔衛生の管理がう蝕や修復した歯の予後に大きな影響を及ぼすこと、さらに口腔衛生状態と全身の健康との関連性が明らかになるにつれ、患者が自分の口腔内状態を把握、管理し、患者自らが治療へ参加することの重要性が認識され始めた。このような患者中心の医療を実践するためには、患者の立場に思いを馳せ、疾病のみならず患者の希望や考えなどを含めた全人的な視点から得られた医療情報を分析、診断し、それらに基づいた総合治療計画を立てることが必要である。そのためにはまずは患者の話に耳を傾け、患者との良好な関係を構築しながら医療情報を得ることが先んじることから、医療従事者の共感性や初診時医療面接の重要性が注目されるようになった。

歯科医師臨床研修制度は2006年から導入されており、患者中心の全人的医療を理解し、基本的な臨床能力を身につけることが主な目標である。歯科医師臨床研修においてもその到達目標の一つとして医療面接が挙げられている。しかしながら生涯研修の第一歩である臨床研修において、研修の修了時に研修歯科医に求められる基本的な臨床能力が身についたのかの評価が必要であるにも関わらず、その評価が十分とは言い難い。したがって、本邦の歯科臨床研修において、臨床能力がどのように変化していくかの情報が極めて少ない。そこで本研究では、研修歯科医が臨床研修において経験を積むことで共感性や医療面接における能力がどのように変化するのかを検証する。

2. 研究の目的

研修歯科医が臨床研修において経験を積むことで共感性や医療面接における能力がどのように変化するのかを検証することを目的に、以下の6つを明らかにする。

- (1) 研修歯科医の主観的な共感性が変化するか。
- (2) 模擬患者(Simulated Patient, 以後 SP と記す)との医療面接の発話のどのような内容および機能が変化するか。
- (3) 研修歯科医に対する SP からの評価が変化するか。
- (4) 研修歯科医に対する指導歯科医からの評価が変化するか。
- (5) SP からの不安や心配を引き出す研修歯科医の能力が変化するか。
- (6) 表現された SP の不安や心配に対する研修歯科医の対応に差があるか。

3. 研究の方法

岡山大学病院の研修歯科医は、臨床研修開始時と終了時の計2回、SPとの初診時医療面接を実施した。研修歯科医は模擬医療面接の直前に、共感性を測定する質問紙である Jefferson Scale of Empathy(以後 JSE と記す)の日本語版に回答した。各研修歯科医に対し、担当した SP1 人と指導歯科医1人は、それぞれの質問票を用いて、医療面接時の研修歯科医の態度を評価した。医療面接はビデオ録画され、後日録画された会話内容を、Roter Interaction Analysis System(以後 RIAS と記す)および Verona Coding Definitions of Emotional Sequences (以後 VR-CoDES と記す)を用いて分析した。なお、本研究は岡山大学倫理審査委員会の承認(研 1706-050)を得て実施した。

(1) 対象者

平成28、29年度に岡山大学病院歯科医師臨床研修単独研修プログラムで臨床研修を行った研修歯科医64人のうち、本研究への参加に同意した64人(男性18人、女性46人)を対象とした。また、岡山 SP 研究会に所属する SP13人(女性11人、男性2人)、および指導歯科医3人(すべて男性)が本研究に参加した。

(2) 分析方法

JSE(研修歯科医の共感性を測定する自記式質問紙)

20項目から成り、それぞれの項目が7段階で評価される。合計点は20~140の範囲であり、点数が高いほど共感的志向が高いと判断される。

SP用の評価票

5項目から成り、それぞれの項目が4段階で評価される。合計点は0~15の範囲であり、点数が高いほど高評価を示す。この質問紙は米国内科試験委員会の患者評価に基づいて作成された。

指導歯科医用の評価票

12項目から成り、それぞれの項目が4段階で評価される。合計点の範囲は0~36であり、点数が高いほど高評価を示す。

RIAS(医療面接時の会話の内容と機能の分析)

医療者と患者のそれぞれの会話を「発話」という単位に区切り、その発話の機能と内容によってカテゴリーに分類する。日本語版 RIAS は 42 のカテゴリーから成るが、本研究では歯科に特化した内容を把握するために 6 つの新しいカテゴリーを追加した。その上で、各カテゴリーの内容の類似性に基づいて 14 の大きなクラスターに統合し、分析した。

VR-CoDES (医療面接時の SP が表現した不安とそれに対する研修歯科医の対応の分析)
SP が表現した不安や心配を特定し、それらに対して研修歯科医がどのように対応するかを分析した。対応は、不安や心配を話すように促す隙間を研修歯科医が SP に与えているか否かによって分類した。なお、対応の分類に関しては、研修開始時と修了時共に SP からの不安の表出が認められた医療面接(15 名分)のみを分析対象とした。

(3) 統計処理

臨床研修開始時と終了時における JSE の合計点数を比較するためには t-test を用いて検討した。また、SP の評価、指導歯科医の評価点数、および RIAS の各クラスター別の平均発話回数は Wilcoxon 検定を用いて比較した。さらに、VR-CoDES を用いて分析した SP からの不安や心配の表出平均回数および SP の不安に対する研修歯科医の対応カテゴリーの平均頻度も Wilcoxon 検定を用いて比較した。

4. 研究成果

(1) 研修歯科医の JSE の平均合計点は開始時で 107.73(SD;10.59, 範囲;85-134)、修了時で 108.34(SD;14.05, 範囲;69-138)であり、両点数に有意差は認められなかった。

(2) 臨床研修開始時と終了時における評価票を用いた SP 評価での合計平均点はそれぞれ 10.73(SD;2.49, 範囲;6-15)と 10.38(SD;2.79, 範囲;5-15)であり、両評価に有意差は認められなかった。

(3) 評価票を用いた指導歯科医評価での研修開始時の合計平均点は 27.70(SD;3.38, 範囲;18-33)であり、修了時の平均点は 27.75(SD;3.90, 範囲;16-34)であった。両評価に有意差は認められなかった。

(4) RIAS による医療面接の会話内容の分析においては、研修開始時と比較して修了時の研修歯科医の情緒的表現(2.47 vs. 1.14, $p=0.000$)、医学的状態に関する情報収集(6.59 vs. 5.19, $p=0.003$)および心理社会的な情報収集(1.23 vs. 0.75, $p=0.011$)の発話数が有意に減少した。しかしながら、歯科医学的状態に関する情報収集の発話数が有意に増加した(20.00 vs. 23.52, $p=0.002$)。

(5) VR-CoDES による分析においては、研修修了時の医療面接における SP からの不安や心配の表出平均回数は開始時と比較して有意に減少した(1.23 vs. 0.61, $p=0.003$)。また、SP が表現した不安に対する研修歯科医の対応に関しては、SP にさらに不安や心配を話すように隙間を与えていない対応の頻度は研修開始時と修了時で有意差を認めなかった(0.40 vs. 0.47, $p=0.748$)。しかしながら、研修開始時と比較して修了時の研修歯科医は SP にさらに不安や心配を話すように隙間を与えている対応頻度が有意に減少した(1.60 vs. 1.07, $p=0.046$)。

本研究は、卒後 1 年間の歯科医師臨床研修において、研修歯科医の共感性と医療面接能力がどのように変化するのかを検討した。その結果、研修歯科医の共感性には変化が認められなかった。初診時医療面接の会話内容においては、研修歯科医の SP への共感の表現が減少し、歯科医学的な情報収集が増加した。また、SP からの不安や心配の表出が減少し、その不安をさらに深く話すように促す対応も減少していた。これらのことより、研修修了時には患者の感情に共感的に対応して患者の心配事を引き出すことよりも、診断のために歯科医学的な情報を得ることに重きをおく医療面接に変化していることが示唆された。しかしながら、SP および指導歯科医の評価の低下が認められなかったことより、この医療面接の変化は全体的な評価に影響を及ぼすほどの大きなものではないことが推察される。医療系の学生の共感性の低下は、カリキュラムが患者との関わりが増加する臨床実習に移行する際に、特に頻繁に報告されている。このことより本研究においては研修歯科医の共感性の上昇は認められなかったものの、共感性の低下がみられなかった結果は注目に値するかもしれない。今後、研修歯科医の共感性を高め、診断に必要な情報収集のみならず、患者の不安や心配などに対応した医療面接の実現にむけて、研修歯科医に対する患者との共感的コミュニケーションに焦点をあてたトレーニングの定期的な実施や指導歯科医からのフィードバックの強化などが考えられる。

<引用文献>

厚生労働省 歯科医師臨床研修必修化に向けた体制整備に関する検討会：「歯科医師臨床研修必修化に向けた体制整備に関する検討会」報告書、2004

Neumann M, Edelhäuser F, Tauschel D, Fischer MR, Wirtz M, Woopen C, Haramati A, Scheffer C. Empathy decline and its reasons: a systematic review of studies with medical students and residents. *Acad Med.* 2011;86:996-1009

Narang R, Mittal L, Saha S, Aggarwal VP, Sood P, Mehra S. Empathy among dental students: a systematic review of literature. *J Indian Soc Pedod Prev Dent.* 2019;37:316-26

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Toshiko Yoshida, Sho Watanabe, Takayuki Kono, Hiroaki Taketa, Noriko Shiotsu, Hajime Shirai, Yukie Nakai, Yasuhiro Torii	4. 巻 21
2. 論文標題 What impact does postgraduate clinical training have on empathy among Japanese trainee dentists?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Medical Education	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12909-020-02481-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 吉田登志子, 渡邊翔, 河野隆幸, 武田宏明, 塩津範子, 白井肇, 矢部淳, 野崎高儀, 小山梨菜, 河崎龍, 鳥井康弘
2. 発表標題 初期研修における研修歯科医の共感性の変化
3. 学会等名 第13回日本総合歯科学会総会および学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Toshiko YOSHIDA, Sho WATANABE, Takayuki KONO, Hiroaki TAKETA, Hajime SHIRAI, Yasuhiro TORII
2. 発表標題 Does postgraduate clinical training enhance empathy and empathic communication among trainee dentists?
3. 学会等名 An International Association for Medical Education Annual Conference（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	白井 肇 (Shirai Hajime) (00263591)	岡山大学・大学病院・講師 (15301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鳥井 康弘 (Torii Yasuhiro) (10188831)	岡山大学・大学病院・教授 (15301)	
研究分担者	鈴木 康司 (Suzuki Koji) (30304322)	岡山大学・大学病院・講師 (15301)	退職のため、研究分担者から削除
研究分担者	河野 隆幸 (Kono Takayuki) (80284074)	岡山大学・大学病院・助教 (15301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関